

研究代表者 所属・職：看護学部・准教授

氏 名：新美綾子

研究課題名：東海市・知多市・美浜町における DiRAN 養成プログラムの推進による災害時の共助力の強化

研究の目的

■南海トラフ巨大地震の発生が危惧されている知多半島において、大規模災害時における地域の共助機能を潜在看護職の力を活用して強化する試みとして、2015年に地域在住災害支援ナース DiRAN (Disaster Relief Assistance Nurse) の養成プログラムを開発した。我々は DiRAN を次のように定義した。

■「DiRAN とは、被災住民の中において、災害時の衛生的環境の保持、被災者の健康保持、負傷者の応急救護などに必要な専門的知識をもっている看護職である。自分と自分の家族の安全を前提に、発災直後から約 72 時間の災害急性期において、自らの判断で行動し、複数の DiRAN が同じ場所に居合わせた場合は、相談、協力し合っ て、救助者が来る時まで、避難者を健康の側面 で支える役割を担う」。

■2016 年からは COC 地域課題解決型研究として潜在看護職の掘り起こしと研修会の計画・実施に 取り組んできた。研究対象地域は、2016 年は東 海市、2017 年は東海市と知多市であった。2018 年はこの 2 市に美浜町を加え、対象地域を拡大 し、次の目標を設定して取り組んだ。

1. 東海市、知多市、美浜町における DiRAN の 養成と強化を行い、DiRAN 間のネットワー クの構築を支援する。
2. 災害時の情報発信と SNS を通した看護職同 士のコミュニケーションを体験し、今後の 発展につなげる。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

■①東海市、知多市を対象としたプログラム

回	日程・テーマ	講師(敬称略)	内容
1	平成30年9月15日(土) 「避難所における生活支援について学ぼう！」	NPO法人さくらネット代表理事 石井布紀子	災害時の避難所における生活支援、性被害防止、災害弱者や子どもの対応等について学ぶ
2	平成30年9月29日(土) 「災害時にお産が始まったら！」	山口助産院 山口みちる	「避難所でお産が始まったらどうするか」など、妊産婦さん及び新生児等への対応やケアについて学ぶ
3	平成30年10月13日(土) 「防災キャンプを体験しよう！」	日本福祉大学全学教育センター 高村秀史	災害時、ライフラインが止まったことを想定して、防災キャンプを体験する
4	平成30年11月10日(土) 「災害の応急対応を知ろう！」	名古屋掖済会病院副院長・救命救急センター長 北川喜己 東海市消防士	救命のスペシャリストから災害時のトリアージや応急処置について学ぶ
5	平成30年11月18日(日) 「東海市防災訓練に参加しよう！」		東海市総合防災訓練に参加し、潜在看護職として、地域で何ができるか検証する
6	平成30年12月15日(土) 「災害シミュレーションゲームで災害時を体験しよう！」	日本福祉大学全学教育センター 佐藤大介、村川弘城他	災害シミュレーションゲーム(B72for DiRAN)を用いて、実際に災害が起きたときの状況を体験してもらい、災害時の避難者の対応を学ぶ
7	平成31年1月12日(土) 「災害時に何ができるか考えよう！」	日本福祉大学看護学部 新美綾子他	今まで学んだことを踏まえて、自分の地域や避難所で、災害時に看護職として何ができるか考える災害時のSNSを用いた情報発信の演習

■②東海市・知多市を対象としたプログラムの参加者数内訳

回	日程・テーマ	参加者数	常勤看護職	非常勤・未就業	無回答・その他
1	平成30年9月15日(土) 「避難所における生活支援について学ぼう！」	65	27	24	14
2	平成30年9月29日(土) 「災害時にお産が始まったら！」	29	13	13	3
3	平成30年10月13日(土) 「防災キャンプを体験しよう！」	33	12	10	11
4	平成30年11月10日(土) 「災害の応急対応を知ろう！」	38	17	13	8
5	平成30年11月18日(日) 「東海市防災訓練に参加しよう！」	13	0	13	0
6	平成30年12月15日(土) 「災害シミュレーションゲームで災害時を体験しよう！」	41	23	13	5
7	平成31年1月12日(土) 「災害時に何ができるか考えよう！」	26	12	12	2

■③美浜町を対象としたプログラム

回	日程・テーマ	講師(敬称略)	内容
1	平成30年9月8日(土) 「災害が起きたら、どうする？」	日本福祉大学福祉経営学部 山本克彦	災害ソーシャルワーカーとして、被災地での様々な支援の経験から、災害時に何をしなければならぬかを学ぶ
2	平成30年9月15日(土) 「避難所における生活支援について学ぼう！」	NPO法人さくらネット代表理事 石井布紀子	災害時の避難所における生活支援、性被害防止、災害弱者や子どもの対応等について学ぶ
3	平成30年11月10日(土) 「災害の応急対応を知ろう！」	名古屋掖済会病院副院長・救命救急センター長 北川喜己 東海市消防士	救命のスペシャリストから災害時のトリアージや応急処置について学ぶ
4	平成31年1月26日(土) 「災害時に何ができるか考えよう！」	日本福祉大学看護学部 新美綾子他	自分の地域や避難所で、災害時に看護職として何ができるか考える災害時のSNSを用いた情報発信の演習

#### ■④美浜町を対象としたプログラムの参加者数内訳

回	日程・テーマ	参加者数	常勤看護職	非常勤・未就業	無回答
1	平成30年9月8日(土) 「災害が起きたら、どうする？」	45	30	12	3
2	平成30年9月15日(土) 「避難所における生活支援について学ぼう！」	12	11	0	1
3	平成30年11月10日(土) 「災害の応急対応を知ろう！」	24	18	5	1
4	平成31年1月26日(土) 「災害時に何ができるか考えよう！」	21	13	6	2

#### 優れた成果があがった点

■2018年度のプログラムでは、災害時に SNS を利用して情報発信をする演習を実施した。災害時には正確な情報発信が適切な救助活動に結びつく。しかし、日ごろから SNS を活用した情報発信を得意としていない人も多いため、プログラムの最終回において、正確な情報発信と発信された情報に応答する演習を次のように実施し、一定の成果が得られたので報告する。

##### ■①演習の目的

災害時に救助や支援を要請するための情報発信の方法と災害時のコミュニケーションツールを体験する。

##### ■②方法

情報をアップロードするサイトとして、看護の広場 Plats Nurse を選択した。このサイトは、愛知県看護協会と合同会社プロジェクトリンク事務局が共同運営している公共性のあるサイトである。

5～7人でグループを作り、実際の災害現場の写真 10 枚の中から情報として発信する場面 3～4 枚を選び、自分が目の当たりにしている災害現場の状況としてスマートホンで写真を撮り、メッセージと共に Plats Nurse (デモ版) に実際にアップした。また、他グループがアップしたメッセージに対するコメントを発信することで、災害時のコミュニケーションを体験した。

##### ■③結果

- ・災害現場の実際の写真を用いて、参加者の想像力を働かせて災害時の状況設定と情報発信をしてもらったことで、災害に主体的に関わることがイメージできた。

- ・災害現場の写真を居住地に当てはめて考えることで、ハザードマップをイメージでき、防災・減災のための具体的な行動が話し合われた。

- ・スマートホンで情報発信の経験のない参加者にとって、情報発信方法と発進された情報を通してのコミュニケーションを体験でき、災害時の受援行動のツールとしてスマートホンの活用を認識できた。

#### ■④考察

地域等で行われる災害対応の研修で、災害現場の情報発信に関する報告は見当たらず、今回の取り組みは、新しい視点であったと考える。机上に置かれた写真ではあるが、それをもとに情報を発信する行為は、被災した主体として自己を位置づけることができ、災害のイメージ、災害時の行動をより具体的なものにすることができたと考える。災害時にはライン、ツイッター、フェイスブックなど多くの SNS 媒体で、たくさんの情報が発信されるが、中には、デマや人々の混乱を引き起こすことを狙った悪質な情報も多い。災害時対応の研修を受けた DiRAN による正確な情報発信は、効率のよい確実な救助活動や支援活動を受けられるだけでなく、救助や支援を受け入れる力である受援力の強化にも結びつくことから、この研修は、災害対応の研修として有用であると考えられる。

#### 研究期間終了後の今後の展望

- 潜在看護職は全国に約 70 万人存在していると推定されているが、実際的人数や居場所は明らかになっていない。今後は、知多半島全域を対象に、潜在看護職の掘り起こしと潜在看護職を対象とした災害研修を展開し、災害時の知多半島の共助力を強化していきたい。